

増改築案、市民が提案

「居心地良い施設に」

狛江市民センターの増改築案についての市民の発表会が6日、狛江市防災センターで行われた。発表したのは、「市民センターを考える市民の会」。

現在の市民センターは1階に図書館、2階に公民館の会議室などが入っているが、老朽化が進ん

でいる。改修費用の予算を巡って市民から異論が出され、改修だけでなく増築や新築の検討もしてほしいという要望を受けて、13年12月の市議会では市民センターの増床を視野に入れた改築を求め、陳情が全会一致で採択された。

橋都彦市長が改修の凍結を表明。15年2月には市と同会が協定を結び、市民の会が作成する改修計画を尊重して市の改修計画を作成することなどを決めていた。

00人が参加。会は、市民センターのコンセプトとして、広場やエントランスを明るく、広く▽市民の居心地良い居場所を形成▽互いの活動が見えるよう一部をガラス張りにするなどを提案した。

現在の公民館の部屋が取りにくいことや青少年の居場所が不十分であることなどから、四つある

学習自習室、幼児コーナーなどの設置を求めた。図書館は狭くて本が少くないとの声が強く、蔵書



市民が望む市民センターの将来像について具体的な案が提示された＝6日、狛江市防災センターで

数を17万冊から35万冊に増やすことや明るく居心地の良い空間などを挙げた。

新しい市民センターのスペースは、公民館を現状の1443平方メートルから2085平方メートルに、図書館を1310平方メートルから3142平方メートルにする

ことを要望。設備面では、地下湧水を活用した冷暖房や市と交流がある山梨県小菅村の木材使用なども提案している。

また、必要な財源の見通しでは「経常収支比率などから見て、悪い財政状況からは脱する傾向にあり、仮に30億円の追加

起債をしたとしても大幅な財政悪化にはならない見込み」として、新たな財源創出案として増改築基金の設立やふるさと納税制度の活用などを挙げた。

会は今後、更に意見などを集約した上で、3月末に市に提案書を提出する方針。

市企画財政部は「市民センターの老朽化以外にも、保育所の待機児や高齢化など市の抱える課題は多い。限られた財源の中で、提案をどのような形でより尊重した政策としていくか、考えていきたい」と話している。